

## 入選

### つながる親切

神奈川県 玉川中学校 一年

松岡 慶丸

友達と遊ぶ約束をしていて歩いていると、正面から二人の高校生が歩いてきました。その二人は、一人が少し大きめの袋を持っていて、もう一人はトングを持っていました。二人とも軍手をつけていたので、何をするのかと僕が思った瞬間、二人は目の前に落ちていたたばこの吸い殻を、持っていたトングで取り、少し大きめの袋に入れました。

僕はとても驚いて、二度見、三度見しました。すると、二人は再びごみを拾ってニコニコと笑っていました。僕はその瞬間、その二人がとてもかっこよく見えました。なぜなら、自分だったら「やりたくないなあ」「面倒くさいなあ」などと、思ってしまうからです。

それに比べてその二人は、嫌かどうかはわからないけれど、少なくとも僕が嫌だと思いを笑顔で楽しそうに成し遂げていたのです。もし、先生やクラスの方針だったとしても、それをしっかり引き受けて、嫌そうにしないでちゃんと仕事をやっているのもすごい、と思いました。

そして、その1週間後くらいに、またごみ拾いをしているのを見たのです。そのときは、楽しそうにではなく、真剣に集中してごみを集めていました。少し汗をかいていたので、がんばっていたのが伝わってきました。そのときは、前とは違ったかっこよさがありました。

僕は、そのときはできなかつたけれど、その二人に憧れて、いつかごみ拾いをしたり、積極的に地域のボランティア活動などに参加したりして、少しでも街がきれいになって良い雰囲気になれば良いと思いました。

そしてこの間、祭りが終わった後、友達と遊んでいたときに、店の前にポテトが3つほど散らばって落ちているのを見かけました。僕はあの二人のことを思い出して、ティッシュでつかんで拾いました。

それを店員さんが見ていて、

「あ、ありがとう。」

と言って、拾ったごみをもらってくれました。そのとき、なぜか良い気持ちになり、これからも続けていこうかな、と思えました。

ポテトを拾えたのは、あの二人のおかげだと思います。もし、あの二人が自分のようにごみ拾いを嫌がっていたら、僕もやっていなかったかもしれません。あの二人のおかげで、ごみ拾いやボランティア活動などに興味を持つことができました。

もし、自分がやったことで、また違う人が興味をもってくれれば嬉しいです。